特別掲載　道都大学紀要 経営学部 第10号 2011

札幌在任時のウインフィールド・P・ニブロの活動について

―スクエアダンスを中心としたスポーツ,レクリエーションの普及活動―

小　玉　立　哉（道都大学経営学部副学部長・教授）

要約

1948年12月末、長崎軍政部から北海道軍政部の民間教育課長として着任したウインフィールド・P・ニブロは、1950年8月に離任するまでの約1年半という短い期間ではあったが、新学制導入への提言指導は勿論のこと、スクエアダンスの普及やスポーツ指導者の養成等を通じて戦後北海道におけるスポーツ、レクリエーションの発展に多大な功績を残した。そればかりか、着任早々の1949年3月、北海道で初めてのスクエアダンスパーティを開催し、三笠宮崇仁親王にスクエアダンスを指導したことにより親王との親交を深め、スクエアダンス並びにレクリエーションへの理解を得、結果的には三笠宮親王を1950年7月に帯広市で開催された第四回全国レクリエーション大会の総裁を経て、1951年10月に（財）日本レクリエーション協会総裁へと導くきっかけを作る役割を果たした。

1. はじめに

ウインフィールド・パンティネ・ニブロ（以下ニブロ）と言えば、長崎軍政部在任時にスクエアダンスを紹介するとともに全国に普及したとして、日本ではフォークダンスの父としてスクエアダンス関係者はもとよりフォークダンス関係者やレクリエーション関係者には知らない人がいない程の人物である。しかし、長崎軍政部情報教育課長時代の活動記録や研究は多く見受けられるが、その後異動した札幌での記録については、新学制移行に関する記録は見られるものの、スクエアダンスの普及やその他の活動に関しては簡単な内容しか残されていない状況にある。

そこで、ニブロが札幌に在任した1948年暮れから1950年8月までの活動について、スクエアダンスに関することを中心に調査することとした。

しかしながら、詳細な記録を残している文献が見いだせなかったため、新聞の関連記事を調査するとともに、当時ニブロから直接スクエアダンスの指導を受け、第4回全国レクリエーション大会のスクエアダンスコンクールにも出場した細川富美子（以下細川）からの取材内容および提供いただいたスナップ写真を参照しながらまとめることとした。

また、この時期は北海道レクリエーション協会や札幌レクリエーション協会等が設立された時期とも重なっており、1950年7月に開催された全国レクリエーション大会に向けて設立したものであろうとの推察はつくが、その関連性についても興味深いものを感じる。

さらに、三笠宮崇仁親王（以下三笠宮親王）が（財）日本レクリエーション協会との関わりを持つようになり、初代総裁に就任したのもニブロが離任した1年後の1951年10月であることから、そこにニブロの果たした役割があったのかという点に関しても興味を持ち、これらについても調査を試みることとした。

2. ニブロの戦前の職業

参考文献を調べる中で、ニブロについて幾つか記載内容が異なるものがみられた。本題に入る前に、そのうちの一点であるニブロの戦前の職業について考察してみた。

アーンズは「戦争前はコロラド州のデンバーで高校の社会の教師をしていた。」と述べている。また、青木も「コロラド州のデンバーで、高校の社会科教師をしていた。」と述べている。

しかし、阿部によると軍政部教育課長一覧の中に「H.S.教員（体育）」とある。

社会科の教師であったのか体育の教師であったのかについては、アーンズはニブロから直接書簡を受け取っており、青木はニブロと直接の面識があるのに対し、阿部は各教育官から提供の履歴メモ（大阪大学人間科学部教育制度学研究室所蔵）等を元に作成したということで、それぞれ根拠はあると言えるが、直接接点がある青木らの言っている社会科教師と考えるのが妥当であろう。

ただ、ニブロは学生時代バスケットボールの選手であったほか、フットボールのコーチをしていたりスクエアダンスの指導が余りにも有名であったことなどから、体育教師との誤解を招いたのであろうと推察される。

また、阿部はニブロの綴りも“Nibro”と表記しているが、正しくは“Niblo”である。

3．ニブロ着任以前のスクエアダンス講習

現在、道内の多くのレクリエーション関係者やフォークダンス関係者は、スクエアダンスをはじめて北海道に紹介したのはニブロであると信じているようである。

しかしながら、1947年から1948年の間にニブロが北海道内でスクエアダンスの講習を行ったという記事は見いだせなかった。

一方、1948年5月6日の北海道新聞（以下道新）には「初のレクリエーション講習」の見出しで5月4日、5日の両日にスクエアダンスを含めた本道初のレクリエーションの講習会が開催されたことを報じており、その時の講師は、CIE（民間情報教育局）からニューフェルド、日本レクリエーション協会から柳田、東京レクリエーション協会から角田、文部省から栗本の4氏であった。

また、1948年8月7日の道新には「勤労者体育講習会」の見出しでスクエアダンス等の講習会開催の記事が載っており、講師は文部省の栗本他3名となっている。

これらのことから、最初に北海道にスクエアダンスをもたらしたアメリカ人はニューフェルドであり、多くの人たちはニブロとニューフェルドを混同していたか、誤って記憶していたのではないかと推察される。

ただし、1947年にニブロを中心にスクエアダンス全国指導者講習会が開催されていたことから、道内の関係者がこの年にニブロから指導を受けていた可能性がないとも言えず、これを否定するものではないが、少なくともニブロはこの時期は長崎の軍政部におり、北海道で講習会を行える環境にはなかった。

一方、2回の講習会及び後に述べる北海道初のスクエアダンスパーティに共通して文部省の栗本が来道していることから、文部省がスクエアダンスを含めたレクリエーションの普及にいかに力を入れていたかが分かる。

4. スクエアダンス普及活動

ニブロの札幌在任期間についてであるが、阿部によると1946年7月から1948年11月まで長崎軍政部教育課長を経て札幌には1949年1月から1949年7月まで在任となっており、青木は1949年（昭和24年）1月札幌に着任と述べているが、アーンズによると札幌着任は1948年暮となっており、北海道フォークダンス連合会創立50周年記念誌にも1948年に赴任したとある。

これらのことから、着任は1948年暮れの押し迫った時期ではあるが、事実上の業務開始は1949年1月になってからであろうと推察される。

ニブロが札幌に在任していたその間、1949年7月に軍政部が廃止となり、代わって民事部が設置され、さらに同年11月には民事部が廃止となり民事本部が設置されるという改組が行われた。ニブロについては、在任期間中の役職は、新聞報道を見る限り一貫して民間教育課長という役職であった。

札幌軍政部に着任したニブロは、長崎での実績を元に北海道でもスクエアダンスを通じて市民の健全なレクリエーション活動の普及に取りかかった。

1949年1月9日の道新には「盆踊りに代って軍政部肝入りのスクエア・ダンス」の見出しで、「一条中学校井坂校長以下教官達を集めて講習会が八日午後二時から道軍政部本部でおこなわれた」と報じられているが、井坂員維校長（以下井坂）は、「ニブロさんが本道の軍政部民間教育課長として来任され私共がCIEの一室でスクエアダンスの手ほどきを受けたのは一月の六日でした。」と述べている。このことからすると、1月6日から引き続き講習会が行われていたものと推察される。

さらに井坂は「元々このダンスの普及奨励については道庁の保健体育部、社会教育部、本校の三者が提携して之に当たるよう指示されていました。」とも述べており、CIE図書館で講習を受けた井坂らがスクエアダンスの普及を図るべく、道庁の関係者と協議した上で「スクエアダンスのてびき」（図1）という教本の作成に至ったものと推測される。

図1「スクエアダンスのてびき」

また、この記事の中でニブロは記者の取材に対し「本道もまず学校の生徒達からはじめ全道に流行させたいと思う」と語っているとおり、ニブロが北海道でスクエアダンスの指導を行ったのは、この時が初めてだったのである。

なお、「市民の健全なレクリエーション活動の普及」が主たる目的と考えるが、男女共学の導入をスムーズに行うための伏線的な意図も感じられる。

続けて、1949年2月18日の道新には「スクエア・ダンスの講習　ＣＩＥ図書館で」の見出しで「ＣＩＥ図書館によると十八日午後六時から同館で團体を対象にスクエア・ダンスの講習が当分の間毎週金曜日に行われる」との記事があり、このときの受講者は市内学校教員の他、道庁、札幌市及び民間企業の厚生担当者等であった。（図2）

図2 道庁職員、札幌市職員、札幌市内学校教員とニブロ
（後列中央のやや左）
（前列左から三人目が柏中学校の新谷校長）

1949年2月26日の道新には「宮様もご覧　スクエアダンス　初のパーティ」の見出しで「道軍政部民間

教育課の指導で札幌市に普及をみているスクエアダンスの本道初のパーティが道教委、道、札幌市の共催で三月四日午後六時から札幌市立一高に開催」と札幌市立第一高等学校（現北海道札幌東高等学校）に於いてパーティ開催予定の記事があり、1949年3月6日の道新には「踊る宮さま　軽快にスクエア・ダンス」の見出しで「両宮さまともスクエアダンスを見るのは始めてで、始めは“踊れないから”と辞退されたが、道軍政本部ニブロ教育課長のたっての勧めで踊られた」と報じられている。

青木はこの件について「ニブロさんは1949年（昭和24年）1月、札幌に着任。仕事の第一弾として2月下旬、宮様スキー大会に合わせてスクエアダンス大会を企画した。」と述べている。

両宮様は2月26日から始まる第20回宮様スキー大会に合わせて来札し、冬季スキー国体期間まで滞在しており、その情報を元にスクエアダンスパーティを企画したものである。

この時のことを三笠宮親王は「私がはじめてスクエア・ダンスという名を聞いたのは、1949年2月札幌のスキー大会に行ったときである。いきなりスクエア・ダンス・パーティによばれて、多数の参加者の前でニブロ氏（現関東民事部）から手ほどきをうけたのがそもそものはじまりである。」と述べている。こうしてニブロと三笠宮親王の交流がはじまり、三笠宮親王がスクエア・ダンスからレクリエーション協会の活動へとつながるきっかけが作られたのである。

パーティ開催まで毎週金曜日にＣＩＥ図書館で行われてきた講習会は、その後も引き続き活動を続けていたが、参加者の増加等に伴い会場は札幌市体育会館（以下体育会館）となり、さらに札幌市立一条中学校（以下一条中学）へと移っていった。体育会館から一条中学へと変更になった理由は定かではないが、当時体育会館は進駐軍に接収されていたため、長期に亘る定期的使用が困難であったのではないかと考えられるが、活動の拠点としてクリスマスダンスパーティの会場としても使用された。（図3）

図3 体育会館で行われたクリスマスパーティの集合写真
（後列で女性二人に挟まれているのがニブロ）

その間の1949年8月には札幌スクエア・ダンスクラブが設立され、初代会長には福山醸造の福山甚三郎（以下福山）が就任した。

スクエアダンスを中心としたレクリエーションの普及が進み、全国レクリエーション週間が現在のゴールデンウィーク期間に設けられスクエアダンスパーティが開催されたり、道内では道民事部の後援のもと10月16日にスクエアダンスの日が定められ、第3回全国レクリエーション大会出場チーム選抜のための全道大会も開催された。

また、一条中学の井坂の他に柏中学の新谷校長もCIE図書館での受講者であったことから（図２）、柏中学でもスクエアダンスの活動が行われていたほか、市内の各学校教員も盛んに講習会に参加すると共に、各校で活動していた。学校内では、生徒への指導も行われており、イベント等で生徒達が発表する場がもたれるなど、急速に普及していった。

その後ニブロは、札幌は勿論のこと道内の他都市でもスクエアダンスの普及活動をしていたことと思われるが、残念なことに道新の紙面には報じられていなかった。

（次号へ続く）

ニブロさんのスクエアダンス普及活動・掲載にあたって

札幌でのコンベンションや支部ジャンボリーで高瀬会長の挨拶に枕詞として必ず紹介されるニブロさんは日本へ最初にＳＤを紹介した人として皆さんご承知の通りです。終戦間もない1946年12月、連合軍総司令部の教育担当官として赴任した ウインフィールド・P・ニブロさんについては初期の長崎でのＳＤ普及活動の記録は結構残っていますが札幌での普及活動の記録は余り目にしたことはありませんでした。

2001年89歳頃のニブロさん

この度、道都大学にてレクリエーション関係を担当している経営学部の小玉立哉（こだまたつや）教授が「札幌在任中のウインフィールド・Ｐ・ニブロの活動についてスクエアダンスを中心としたスポーツ、レクリエーションの普及活動」をまとめられました。日本にＳＤを紹介、普及させた当時の情景が目に浮かぶようです。

早速、先生に私達のスクエアダンス活動を連絡し、快く支部ニュースへの掲載を承諾して頂きました。

今月号から数回に渡って掲載します。乞うご期待。

（斉藤正也）

札幌在任時のウインフィールド・P・ニブロの活動について

—スクエアダンスを中心としたスポーツ,レクリエーションの普及活動 2—

道都大学経営学部副学部長・教授　小　玉　立　哉

5. 第４回全国レクリエーション大会

1950年7月24日から27日までの日程で帯広市に於いて第4回全国レクリエーション大会が開催された。ニブロはこの大会に祝辞を寄せたうえで開会式に出席し、24日19時から行われたスクエアダンスパーティをはじめ、25日13時から帯広小学校にて開催されたスクエアダンスコンクールの名誉審査員を務め、その開会式で激励の辞を述べたほか、26日13時15分から十勝会館にて開催された日米レクリエーション協議会にも出席し、日本人のレクリエーションについて「非常に熱心で熱意と努力を払っている」といった所感と「市民生活を豊かにするために公共の施設を充実するとともに優秀な指導者を養成するように」との提言を述べている。また、日本のスポーツマンについても、礼儀正しく堂々たる態度で試合に臨んでいる点を賞賛している反面、日本人に公徳心が欠けている点等を指摘し改善を求めている。

この大会の様子は連日新聞に報道されたが、その中から下記の記事を紹介する。

『昭和25年7月26日道新夕刊

踊る“三笠おどり”宮さまステップも軽く

【帯広発】全国レクリエーション大会記念スクエア・ダンス・パーティは二十四日午後七時から帯広小学校室内運動場に三笠宮を迎え全国二十チーム百六十名の男女が参加。こうこうと輝く電灯の下五色のテープに美しく飾られた会場せましと全員楽しくおどり、午後十時に閉会したが、宮さまは一同の要望に応えて気軽に上着をおぬぎになりワイシャツ姿でおどりの輪にお入りになり道民事本部ニブロ課長が宮さまのためとくに創作した“三笠おどり”をステップも軽やかにおどられ待ちかまえた報道陣のフラッシュをたてつづけにあびたが終始にこにこと笑われおどり終了後もニブロ課長をはじめ米国レクリエーション代表フィッシャー夫妻等とごいっしょに帯広フォーク・ダンス協会員による新十勝音頭その他各種スクエアダンスを最後まで熱心に見物された。』

この紙面を見る限りでは、スクエアダンス一色の大会のような印象を与えがちであるが、総会や分科会に加え、先に述べた日米レクリエーション協議会などで意見交換が行われた上に、郷土芸能大会の他、絵画や工芸などの展覧会なども開催されており、盛りだくさんの大会であった事に加え、三笠宮親王を大会の総裁として仰いだ上で、第1回大会を1947年に石川県金沢市で第2回国民大会と同時開催した以降、初めて国体との分離開催であったことや、アメリカレクリエーション協会の代表を迎えて戦後初の日米レクリエーション協議会を開催し、日米共同の世界平和宣言を採択するなど、歴史的にも非常に意義のある大会であった。

（図４）7月24日のスクエアダンスパーティ
三笠踊りの模範演技を披露する三笠宮親王（中央）

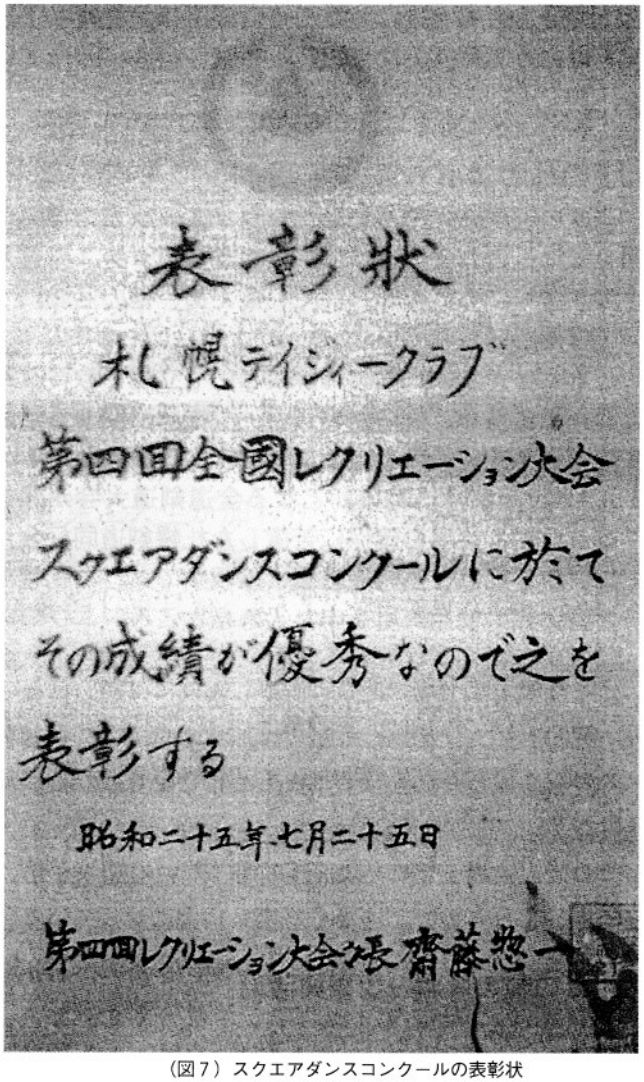
また、ニブロが三笠宮親王のために特別におどりを創作したとあるように、1949年3月以降の1年数ヶ月の間については報道されていないが、文通などを通じてかなりの親交を深めていたものと推察される。

（図５）札幌からの参加者とニブロ（前列中央）旅館石川屋前

スクエアダンスコンクールに札幌からの参加は、札幌スクエアダンスクラブからの１チームのみで、大会前にセレクションが行われて選出された、小田ら8名が札幌市職員の小玉を監督に札幌デイジィークラブの名前で参加している。

（図６）石川県からの参加者も交えて（後列中央）同

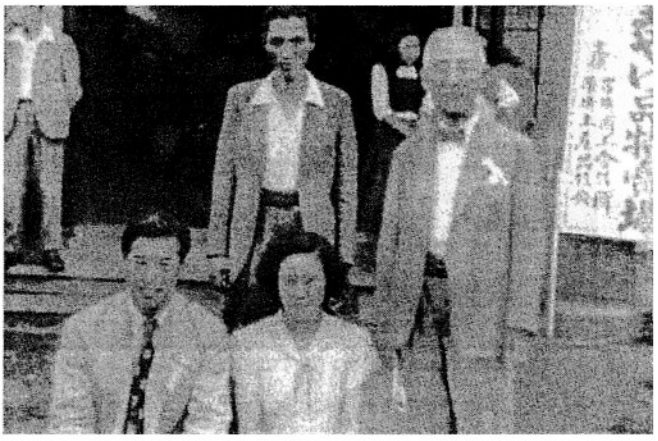
全国大会報告書の表彰団体欄に札幌デイジィークラブの名は載っていないが、表彰状が残っており（図7）最優秀賞1チームの他デイジークラブを含め７～８チームが表彰されたと細川は述べている。


表彰状
札幌デイジィークラブ
第四回全國レクリエーション大会
スクエアダンスコンクールに於て
その成績が優秀なので之を
表彰する
昭和二十五年七月二十五日
第四回レクリエーション大会会長 齋藤惣一

（図７）スクエアダンスコンクールの表彰状

（図８）スクエアダンスコンクールの表彰式

三笠宮親王が「レクリエーション大会で札幌医科大学長の大野博士や、北海道醸造業で有名な福山氏などが、（中略）ほんとうに愉快そうにスクエア・ダンスに興じている」と述べているとおり、福山は大会参与として帯広入りしており（図９）、大野精七（以下大野）も全国大会報告書に名前を見いだすことができなかったが、帯広入りしスクエアダンスパーティ等に参加していたものと推察される。



（図９）おみやげ品特売場前にて（右端が福山）

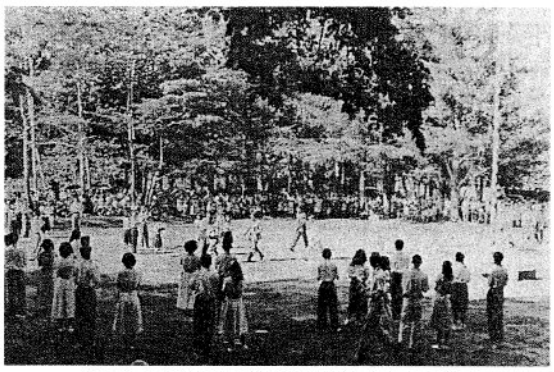
ニブロは札幌からの参加者とは別行動で、明確な記録は残っていないが23日に帯広に入り各種行事に参加した上で、27日12時から行われた閉会式終了後、列車で帯広駅を発ち札幌に戻っている。

また、この大会に先立ち、北海道レクリエーション協会が1950年５月に北海道大学教授の三井透（以下三井）を会長に設立されたほか、札幌レクリエーション協会も1949年12月に設立準備会を開催し、翌1950年２月福山を会長に設立されている。その他1950年には井坂を会長に北海道フォークダンス協会が発足し、1952年には大野を会長に北海道フォークダンス連合会が結成されている。これらのことから、北海道並びに札幌市のレクリエーション協会や北海道フォークダンス協会設立の陰にはニブロとスクエアダンスの存在が大きな役割を果たしていたのである。

さらに、三笠宮親王が「フォーク・ダンスに夢中になっているうちに、レクリ沼に踏みこんでしまって、もうあがれなくなったわけである。そのくらいフォーク・ダンスは、今のレクリエーション活動の中で重要な位置を占めている。」と述べられたり、フォークダンスの全道大会が第２回から第４回まで北海道レクリエーション協会等が主管となり全道レクリエーション大会と併催で行われたことからも、当時のレクリエーションにスクエアダンスやフォークダンスは欠くことのできないものだったのである。

6. 宮様歓迎スクエア・ダンス・パーティ

三笠宮親王は第４回全国レクリエーション大会の帰路、阿寒での静養を経て７月30日に札幌に立ち寄った。同日、札幌市内各所の視察をし、午後４時から円山公園で開かれた「宮様歓迎スクエア・ダンス・パーティ」に出席した（図10）。田中北海道知事、高田札幌市長らが案内をしたが、ニブロは北海道民事本部次長ウイルカースン少佐らとともにダンスパーティ会場である円山公園で三笠宮親王を出迎えた。

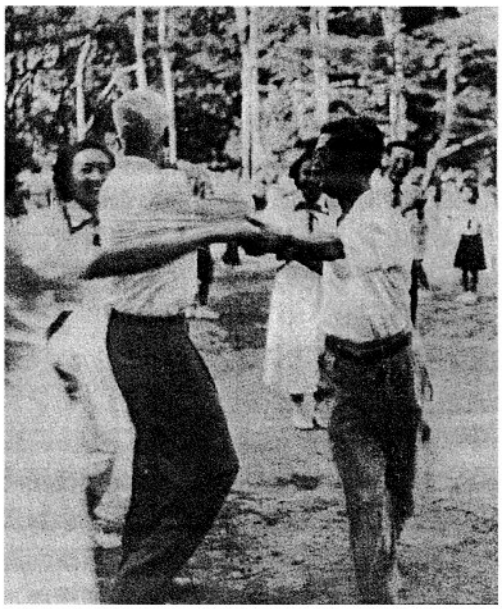


（図10）三笠宮親王が会場に到着したときの様子

会場は池の畔で催されたとあり、現在の中央広場と呼ばれる場所から北海道神宮の第二鳥居にかけての範囲付近で、路面電車円山終点駅に近く、当時としては交通アクセスの良い場所であった。円山終点駅は、路面電車の駅としては珍しい駅舎のある駅で、現在は路面電車の乗り入れ自体無くなっているが、1952年まで駅舎が存在していた。

三笠宮親王が到着後、間もなくダンスパーティが始まったが、百合子妃殿下が体調不良で同席できなかったため、ニブロが三笠宮親王に配慮し細川らを促してパートナーを務めさせた（図11）。

（図11）三笠宮親王（中央）と細川



（図12）ニブロ（後ろ姿）と三笠宮親王

三笠宮親王が会場でダンスを楽しんだのは30分ほどの短い時間で軽く汗をかく程度ではあったが、ニブロもダンスに加わり三笠宮親王とともに会場を盛り上げた（図12）。

その後、会場を後にした三笠宮親王は、札幌女子医大を経由して月寒の牧洋場等を視察し宿舎に帰っている。

7.その他のスポーツ振興活動

ニブロ在任時のスポーツ、レクリエーション振興に関しては、これまで述べてきたスクエアダンスの普及活動が余りにも広く知られているため、他の活動については殆ど知られていない。

しかしながら、民間教育課長という立場で教育改革に取り組む傍ら、幾つかのスポーツ振興に関する活動が報道されているので、ここで紹介することとする。

1）1949年6月、戦後初となる全道剣道大会が開催されたが、会場の確保に苦慮した札幌剣道同好会がニブロを訪れ、当時進駐軍に接収中であった札幌市体育会館の使用許可を申し入れたところ、ニブロの計らいにより許可されることになった。当時、大会の開催等には各地区共に苦慮していたことが推察されるが、ニブロは日本の武道における礼儀作法等に理解を持っており、快く斡旋したものと思われる。

　このことは北海道の剣道界にとっても非常に大きな出来事であり、ここにもニブロならではの功績が認められる。

2）1949年6月に札幌と帯広で、小学校から大学までの教職員を対象とした陸上競技の講習会開催の報道があり、講師としてニブロの名前がある。また、実際には離任のため務めることができなかったであろうが、1950年8月に洞爺湖で開催された少年団体指導者講習会の講師としても名前が出ている。

　両者とも指導者養成のための講習会であり、優秀な指導者養成の必要性を唱えていたニブロの実践活動ととらえることができる。

3）1949年10月、来日中の野球チームシールズが大学生などと交流戦を行っていたが、シールズの監督であるオドールが子供達を球場に招待する「オドール・デー」が設けられた。このイベントを知ったニブロは、本道からも見学させたいとして、札幌と稚内から各1名を進駐軍の協力の下観戦に送り出した。

　このことは、日本の子供はベースボールをするパーセンテージがアメリカよりも高いと感じるほどレクリエーションやスポーツに熱心であり、スポーツやレクリエーションを通じて立派な市民に成長してもらいたいというニブロの思いが伝わってくる。

（次号にて完結）

特別掲載　道都大学紀要 経営学部 第10号 2011

札幌在任時のウインフィールド・P・ニブロの活動について

—スクエアダンスを中心としたスポーツ,レクリエーションの普及活動(最終回)—

道都大学経営学部副学部長・教授　小　玉　立　哉

8．送別会

突然と言っても過言ではないほど急にニブロの離任が決まったようで、三笠宮親王が札幌を発った1950年8月2日ニブロの送別会と送別ダンスパーティが行われた。

送別会は北海道教育委員会が主催、ダンスパーティは北海道フォークダンス協会と札幌スクエアダンス協会の共催によるものであった。

ニブロの突然の離任に対し、「共学生みの親ニブロ氏に感謝文」と題し1950年8月3日の道新は、道教委では2日臨時委員会を開催し、以下のような感謝決議文を作成しニブロに贈ったと報じている。

「本道の六・三制学制をはじめ高校統合、男女共学に協力され、明るいレクリエーションとして永久に道民の生活に残るスクエア・ダンスを普及された努力を感謝する」

前任の民間教育課長であったシモンズも、初めて行われた北海道教育委員選挙への指導助言と言った貢献などがあったにもかかわらず、このような感謝状を贈ったという報道はなされていないことから、これは相当異例のことだったのであろうと推察される。

送別会は札幌市民会館で行われたが、ダンスパーティは場所を体育会館に移して行われた（図13、14）。

体育会館は北1条東2丁目という立地条件もさることながら、CIE図書館から場所を移してスクエアダンスの活動を行った場所であり、またクリスマスパーティの会場としても使用した場所で、ニブロにとっても送る側の関係者にとっても、思い出深い場所での開催であった。

（図13）送別ダンスパーティ①（ニブロと細川）

（図14）送別ダンスパーティ②

9．まとめ

ニブロは、1948年12月末から1950年8月初旬までの1年半強しか札幌に在任しなかったにもかかわらず、その短期間に成し遂げた業績は極めて多大なものであった。三笠宮親王を総裁

へと導くきっかけを作るなど日本レクリエーション協会への貢献があり、札幌を始めとした北海道内のレクリエーション協会やフォークダンス関係団体についても彼の存在がなければ今日までの歴史は違ったものになっていたかもしれない。

1950年に開催された第4回全国レクリエーション大会で興味深いのは、前年の3月にはじめてスクエアダンスと出会った三笠宮親王がこの大会の総裁となり、翌1951年10月に日本レクリエーション協会の総裁となったことである。アーンズによると、ダンス熱に拍車をかけた二人の存在として三笠宮親王と百合子妃殿下を挙げているほか、「日本でのフォークダンスの位置づけは親王ご夫妻の協力の下に確立されたのである。」とある。

また、青木によると「その後のスクエアダンスで結ばれた友情を、今もなお文通によって続けているとのことである。」とある。ニブロがどこまで意図してのことかは不明だが、1949年1月に着任後仕事の第一弾として、高松宮、三笠宮両親王の来札に合わせてスクエアダンスパーティを企画し、三笠宮親王との親交のきっかけを作り、さらにスクエアダンスはもとよりレクリエーションに対する理解を三笠宮親王にもたらした。

その後、翌1950年7月までの動向については、道新に報道がなされていないため未確認であるが、その間に三笠宮親王は、ニブロとの文通を通したり、日本レクリエーション協会副会長となった栗本にフォークダンスを師事したりしたことなどから、協会に対して理解を深めたことは明白であろう。そう考えると、栗本の存在もさることながら、日本レクリエーション協会に対するニブロの功績は実に多大であったと言える。

ニブロの北海道における業績の一部としてスクエアダンス普及活動を取り上げ調査したが、北海道の教育界に対する貢献も多大なものがあった。1947年から始まっていた六・三制や男女共学等の新学制への移行が、北海道では種々の問題により行き詰っていた中、ニブロが着任した1949年から1950年にかけて画期的に進展したことは衆知の事実であり、北海道教育委員会からの感謝状が全てを物語っていると言える。

札幌市に於いても1947年暫定的処置で六・三制が発足し、1948年から恒久的なものとすべく新学生実施準備委員会を設置するなどして検討を重ねてきたが、市議会での承認が得られないまま1949年度の新学期を迎えようとしていたところを、ニブロの勧告により高田札幌市長が1948年に提案した原案と同様な形でスタートしており、その技量を窺い知ることができる。

なお、本稿では北海道レクリエーション協会の設立について、北海道レクリエーション協会の記録を採用し、1945年5月の設立で三井を初代会長としたが、第4回全国レクリエーション大会の報告書には北海道レクリエーション協会の会長は松浦三平となっており、準備委員会の委員はおろか参加者名簿の中にも三井の名前は無い。

また、準備委員会が5月2日に開催されているのに対し、北海道レクリエーション協会の設立は5月14日となっている。この全国大会の準備を進める中、二ヶ月足らずで会長が交代するとは考えがたいため、この解明について、北海道レクリエーション協会の設立期日も含めて今後の課題としたい。

謝　辞

本調査にあたり、取材協力並びに貴重な写真を御提供くださった細川富美子さん、関係情報や資料を御提供くださった日本スクエアダンス協会北海道統括支部副支部長の佐々木修さんの御協力に対し、感謝の意を表しこの場を借りて御礼申し上げます。